

idea

ニュースレター「アイデア」

2024.3

NPO・地域・企業・行政の情報発信により、「アイデア」と「であい」の機会を創ります。

- 1 | 二言三言 | 一関コミュニティFM株式会社 放送局長 塩竈一常さん(後編)
- 3 | 団体紹介 | 染色の会
- 5 | 地域紹介 | 萩荘第3民区(一関)
- 7 | 企業紹介 | インテگران株式会社(千厩)
- 8 | 博識社のフクロウ博士 | 地域運営の落とし穴④ 失うものの代償
- 9 | センターの自由研究 | 難解・難読地名に挑戦! 第8弾 「磐清水」



今月の表紙

千厩町磐清水の小字名「萩生田」。105人へのアンケートの結果、磐清水の小字の中で、正答者が2番目に少なかったのがこの地名でした。さて、磐清水の中で「最も読めない」地名となったのは…? (自由研究)

idea

発行 いちのせき市民活動センター
せんまやサテライト 〒021-0881 一関市大町4-29 のはなプラザ4F Tel 0191-26-6400 Fax 0191-26-6415
〒029-0803 一関市千厩町千厩字町149 Tel 0191-48-3735 Fax 0191-48-3736

ホームページ: <https://www.center-i.org/> メール: center-i@tempo.on.ne.jp

お知らせ

イベント

「第24回 いわい美術展 2024」

「美術の盛んな地域づくりにふさわしい振興事業、人材育成に寄与すること」を目的に活動する「いわい美術振興協会」では、「第24回いわい美術展 2024」を下記日程で開催します。同協会会員などが制作した油彩・水彩・アクリル画等50点以上の作品を展示します。詳しくは下記までお問合せください。

開催日: 2024年3月28日(木) ~ 3月31日(日)
時間: 10時~17時
※最終日は16時まで
会場: 一関文化センター 展示室 (一関市大手町2-16)
入場料: 無料
問合せ: 0191-23-1366 (事務局・石川)

募集

教育旅行等の「民泊」受入れ家庭募集!

地域資源を活かした、教育旅行及び着地型観光による交流人口の拡大等に取り組む「(一社)いちのせきニューツーリズム」では、修学旅行や体験学習などで他県から訪れる子どもたち(中学生・高校生)の「民泊」受入れに協力してくれる家庭(体験要素があれば農家でなくても可)を募集しています。詳しくは下記まで。

受入人数: 3名程度/1泊が基本
体験: 各家庭で、農作業や家の作業等を手伝って過ごします。
謝礼: 宿泊体験にかかる体験料(食事費用含む)を支払います。
問合せ: 0191-82-3111 (一般社団法人いちのせきニューツーリズム)

イベント

箏&KOTOアンサンブル 第14回演奏会

「二階堂雅楽静 箏・三弦教室」主催の演奏会を下記日程で開催します。今回は「箏と謡による『平家物語』」と題し、「箏・三弦教室」の生徒による箏演奏と、「喜多流関謡会」による謡と仕舞の共演をお楽しみいただけます。詳しくは下記まで。

開催日時: 2024年3月31日(日)
(開場) 13時
(開演) 13時30分
会場: 一関文化センター 中ホール
チケット料金:
(一般) 2,000円
(高校生以下) 500円(未就学児無料)
※チケットは、一関文化センター、二階堂箏曲教室、出演者から購入可。全席自由。
問合せ: 0191-82-4604(二階堂)

情報

第3回 福よせ雛うちが一番選手権

飾られなくなったお雛様を、持ち主の気持ちに寄り添いながら生まれ変わらせる「福よせ雛」は、全国的なプロジェクトで、県内では千厩地域のみが参加し、3会場で展示を行います。各開催地の福よせ雛の人気を競う「うちが一番選手権」では、「せんまやはなよ」がエントリーし、連覇を狙っています。なお、昨年1位の「せんまやつよし」が、今年の全国版パンフレットの表紙を飾っています。

投票方法: 「福よせ雛プロジェクト」公式ホームページから投票(右記QRコードからも可能)
問合せ: 0191-52-2309(一関市千厩市民センター内「岩手せんまや福よせ雛プロジェクト実行委員会」)

情報

LINEオープンチャット「インアーチ情報交換グループ」運用開始

市民活動団体同士の横の連携を推進する「いちのせき市民活動促進会議インアーチ」では、LINEの「オープンチャット」という機能を活用し、各団体が気軽かつタイムリーに情報を共有し合えるグループを2024年1月17日に開設しました。

いちのせき市民活動センターに「団体登録」していることが参加条件で、参加対象団体には順次案内を送付しています。「団体登録」が未登録で、同グループへの参加を希望する団体等は、下記までお問合せください。

問合せ: 0191-26-6400 (事務局・いちのせき市民活動センター)

講座

令和5年度 まちづくり入門講座

「まちづくり」に興味・関心のある市民や、実際に関わりのある地域協働体の職員等を対象に、「地域づくり」「地域おこし」の違いを整理し、それぞれにおける「視点」を考える講座を開催します。電話か申込フォーム(右記QRコードからも可)からお申込みください。

日時: 2024年3月23日(土) 10時~15時(昼休憩あり)
場所: のはなプラザ4階共同会議室
講師: 小野寺浩樹 (いちのせき市民活動センター長)
参加料: 無料
定員: 15名(3月18日までに申込/先着順)
問合せ: 0191-26-6400 (いちのせき市民活動センター)

まちの写真展 スタッフがまちの1コマを切り取ります。

作品名 「耳あけ地蔵」? 「笑い地蔵」?



萩荘地内に214年前に建立されたと考えられるこのお地蔵様には、穴の開いた石や五円玉がお供えしてあります。石に穴を通す行為が「耳を開ける」に通じ、「耳が明けます様に」との思いで奉納されたものと言われていいます。その表情から「笑い地蔵」とも呼ばれます。



旧町村別の人口動態等を共有します。

| | 人口 | 前月比 | 世帯数 | 前月比 |
|--------------|---------------|-------------|--------------|-----------|
| 一関 | 53869 | -22 | 24581 | 28 |
| 花泉 | 11809 | -31 | 4676 | -12 |
| 川崎 | 3190 | -9 | 1268 | 1 |
| 千厩 | 9680 | -27 | 4081 | -2 |
| 大東 | 11711 | -39 | 4878 | -19 |
| 東山 | 5797 | -23 | 2272 | -3 |
| 室根 | 4333 | -16 | 1799 | -6 |
| 藤沢 | 6993 | -15 | 2778 | 5 |
| 一関市全体 | 107382 | -182 | 46333 | -8 |
| 人口 | 107382 | -182 | 46333 | -8 |
| 世帯数 | 46333 | -8 | 1799 | -6 |
| 出生数 | 28 | 0 | 2778 | 5 |

2024年2月1日付
(2024年1月31日現在
住民基本台帳より)
※外国人登録者含む

一関市全体 前月比

人口 107382 -182

世帯数 46333 -8

出生数 28 0

177 / 107,382

塩竈 一常

平成24年4月に放送開始した「一関コミュニティFM」パーソナリティ。立ち上げから関わり、平成28年より放送局長に。一関二高卒業後、専門学校で放送を学ぶと、関西のコミュニティ放送パーソナリティへ。複数の放送局で経験を積み、平成19年には帰郷とともに奥州市の「奥州FM放送」の立ち上げにも尽力。昭和53年、一関市生まれ(在住)。



第115回 一関コミュニティFM株式会社 放送局長 塩竈一常 ✕ いちのせき市民活動センター センター長 小野寺浩樹

「ラジオ」は市民の「広場」 ～「本音」をつないで、支える【後編】～

「FMあすも」こと「一関コミュニティFM」は、公設民営の放送局でありながら、現在は8割を民間スポンサー収益で賄っています。資金面等で閉局に陥る放送局もある中、間もなく12年を迎え、いよいよ「地域性」を乗せていこうという今、「市内にコミュニティ放送がある」意義を考えていくと、我々市民が担うべき「役割」も見えてきました。(2回シリーズの後編)

小野寺 「ここまで」の10年間は「ラジオがある生活」を定着させるために、あえて地域色は濃くせず、基本的かつ良質な「放送」を心がけてきたということでしたが、では、次の10年間はどうかお考えですか？

塩竈 震災後、寂しい思いを抱えている人などに、寄り添うと言うか、隣にいる、それもピタッと隣に座っていて、肌の温もりが伝わってくるような、そんなラジオにしたいと思ってきました。そういう人の孤独が分かっていたら、そこに対して解決策というか、「こんな制度がありますよ」ってつないであげられるようなラジオ局が理想なんです。なので、リスナーさんよりつながっていききたいですね。

小野寺 以前には市民がスタジオゲストで参加するコーナーもありましたよね？

塩竈 コミュニティFMらしさが表れた番組でしたね。市民が

自分で話をし、それを別の市民が聞いて「良い話してるな」という連鎖。それを引き出せるパーソナリティが手薄になった時期があつて途切れていますが、今またパーソナリティも育ててきているので本格的にやっていきたいな、と。単なる取り組み内容だけでなく、想いやきっかけ、家族や関わる人の支えとか、そういうことをしっかり引き出せるような。リスナーもそういう部分が聞きたいという風に育ってきていると思うんです。

小野寺 イベントなど、表立って何かに取り組む人のピックアップになりがちですが、例えば地道に地域の役職で支えている人とか、そういう人の頑張りや本音も引き出して、つないで欲しいですね。

塩竈 光が当たりがちな人の周りにも人がいるので、それを伝えることは大事だと思います。実は、震災後、放送から離れようとした時期があつたんです。

気持ちで、かなり早い段階で情報をもらえるような関係性が必要ですよ。

小野寺 失つてはいけないものが失われていく今、市民力でカバーしていくことが大事ですね。

塩竈 そうやって「失っちゃいけない」って口に出す人の存在も大事で。アナウンサーには立场上、言いにくいこともあるんです。なので「リスナー育て」も重要なんです。

小野寺 ラジオ局というクリエイティブな職業ができて、メディアの仕事がしたいという子の選択肢が地元にあることは大きな存在だと思ふし、あとはキラキラした部分だけでなく、塩竈さんのそうしたマインドもつながっていくことを願います。

塩竈 誰かをスターにしたいのではなく、地域に活用してもらうことを模索していて、それが「あすも」を末永く残していくための道だとも思うので、民間主体の、健康的な放送ができる局であり続けたいと思います。

どへの支援はなくて。支えてくれる人への支援がないのは課題だなと思つていて……。

塩竈 そういう声って、自分たちでは注目するのが難しい部分もあるんで、聞いている人から「こういう声も取り上げて欲しい」って出してもらえるのもラジオの良さかなと。

自分も高校生の時に、けっこう重い悩みをオールナイトニッポンに投稿したら、読んでもらえただけでなく、パーソナリティが「リスナーはどう思う？」翌週までに送ってください」って呼びかけてくれたんです。翌週、本当にまた取り上げてくれて「いろんな意見があつて、答えはないけど、これだけの考え方があることを知って欲しいから、これを全部送りましょう」って、僕に送ってくれたんです。それが「ラジオつてすごい」と思った原点だし、この経験から「自分が答えを持ち合わせていなくても良い」と思えるようになりましね。

小野寺 すごい経験ですね。でも同じように「みんなが思つてるけど口に出せないこと」って絶対あつて、例えば「家族支援が必要だ！」って、誰かが言っ

それまではずっと「ラジオは防災のため」と思つていたんですが、「その先の役割」については用意できていなかったことに気づいて。当時、生活困窮者に寄り添うパーソナル・サポートの仕事を興味があり、講座を受けたんですが、学んだのは、当事者に対して、その人が何をしたいのか、まず本音を引き出して、その的確な情報を伝えるのが大事だ、ということ。そのときに、「今までラジオがやってきたことと似ている」と気づいたんです。さらに、住民に親切に寄り添う気持ちをブラステした「情報」を出すことで、ラジオはもっと頼りにされるんじゃないかな、って。

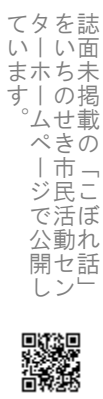
小野寺 いざという時って、「災害」だけでなく、「日常」だったりしますからね。病気とか、介護とか、困窮とか……。

塩竈 そう、「こういう仕組みがある」というのを知っておくだけで、命や心が救われることがあると思うんです。

小野寺 今は「本人支援」が中心の社会なので、認知症や障がいなど、本人に対しての支援はあつても、それを支える家族な

※2 1967年10月に放送開始し、現在も全国的に人気を誇る「ニッポン放送」の看板番組。

※1 様々な生活上の困難に直面し本人の力だけでは個々の支援を的確に活用して自立することが難しい人に対し、個別的かつ継続的に相談・カウンセリングを行い、問題を把握し、必要な公的サービスのコーディネートなど、自立に向けた個別支援を行う専門員。



団体紹介

染色の会

一関市日形市民センターを拠点とし、草木染を通じた交流を楽しむ。平成5年4月、社会教育団体として登録することを機に団体化(それ以前から有志で活動)。現在の会員数は7名。

TEL 090-5554-8591(会長・千葉)



左の写真：令和4年度「日形秋祭り」での同会の展示

「宝物の場所」でお金をかけず

「茜の根を掘りに山に行ったはずが、ワラビ採りに夢中になってしまつて。初めてワラビを見て、山で食べたお昼は美味しかった！」そう笑顔で振り返るのは、令和5年度から「染色の会」の會長を引き継いだ千葉雅子さんです。夫の実家がある花泉町日形に平成24年に移住した千葉さんは、移住後数年して「参加してみないか」と同会に声をかけられたことがきっかけで、会員となりました。東京育ちの千葉さんにとって、自然豊かな日形での生活は新鮮で、稲が成長する姿や、「大地があつて野菜が作れる」という「当たり前」のようなことに、今もなお感動しているとか。

そんな感動をさらに高めるのが、同会が行う「草木染」。同会のモットーは「自然のもので、お金をかけず」であり、基本的に自生する身近な植物を染料にします。「春になると、材料がたくさん

「生きがい」「そして」「生きる力」に

出てきます。お墓参りで山に行つても、つつい材料を探してしまふ。習性と化してますよね」そう笑う千葉さんに、他の会員たちも頷きます。

以前に東京の知人にお土産として自分で作った草木染の作品を渡したところ、草木染の魅力に目覚めただけでなく「宝物の場所に住んでいる！」と、羨ましがられたとか。一般的なテキストにそつて草木染をしようとする、経費が少なからずかかりますが、日形という土地柄を最大限に活かすことで、30年以上活動が続いています。

染色の会

繭細工から始まり、布への染色へ

茜、古代米(葉)、ナツハゼの実、桜の枝、ヨモギ、ツキミソウ、コスモス……と、使用する材料をあげていくとキリがありません。そうした材料について「どこにでもある植物であり、(草木染を)やるかやらないかの違い」と、同会の前会長で、会員からは「先生」と

慕われる小原澄子さんは微笑みます。

小原さんが草木染を始めるきっかけとなったのは、約40年前に当時の花泉町が開催した繭花の講習会。養蚕が盛んだった日形では、養蚕農家から「出荷できない繭の処分が大変」という声があり、「処分するのであれば」と、受講者の中から希望者が集まり、趣味の一環として繭細工を続けていました。30年程前、その中の一人が各地域の女性が集まる事業に参加する際、お土産として草木染のハンカチを持つていくことに。それがきっかけとなり、繭ではなく布への染色に取り組み始めました。

玉ねぎや紅花からスタートした草木染も、身近な植物を摘みながら、独学でレパートリーを増やしていき、様々な色が出せるように。また、藍は畑で育てることで、生藍染めも行います。日本三大紬・黄八丈で使用されるコブナグサも採取できるとのことです。「なんでもあるのよ」と会員一同、恵まれた環境に感謝します。

草木染を通して、広げ、深める人生観

会として会員が集まるのは、およそ2か月に1回(冬場は活動なし)。普段

は各自で草木染を楽しみ、会で集まるときにも、手作りの漬物や総菜、お菓子などを持ち寄り、料理に関する情報交換や、「人生の勉強」をすることが多いのだとか。

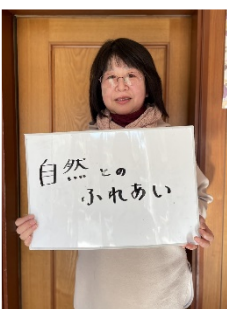
90代の小原さんから得る人生の教訓は大きく、草木染についても「『自分の世界』がもてるものであり、例えば家族がいなくなつて自分ひとりだけの暮らしになつてしまつても、お散歩に行つて、材料を摘んできて、染めてみる。『そういう何かがある』と思うだけで気持ちが楽」と、小原さんの生き方や考え方から、会員が人生観を広げていく場にもなつていきます。

令和5年10月には日形市民センターが主催する「藍染め体験教室」にて、講師を務めた同会。放課後子ども教室での子どもたちへの体験指導などは過去にも経験していますが、一般の大人に向けての教室は初めて。男性の参加者もいたり、同会会員にとつても刺激になつたと言います。

教室の中で小原さんは「今は手軽に服が買える時代ですが、昔は着古したものを染色し直して着用するなど、着るものを大事にし、染色も身近なものだった」「庭で摘んだ草木から色が出る不思議さ。染めには水も必要。自然つてありがたい。草木染ができる私

Q.あなたにとって「草木染」とは？

会長



A. 自然とのふれあい

ちば まさこ
千葉 雅子さん

「スーパーで売っているたくあん漬の素が美味しくて、東京の友達に送ったら喜ばれた」と、移住者ならではの視点で日々の生活を楽しんでいます。

前会長(指導者)



A. ままごとあそび

おばら すみこ
小原 澄子さん

夫婦で約40年前に日形に移住。「公民館(市民センター)は私のためにあるんじゃないかと思う」と笑い、市民センターを最大限に活用しています。

は幸せ」と、日々の暮らしを大切に、感謝する気持ちも伝えます。

同じ材料で同じ作業をしても、同じ色は出ないという草木染。大人になつても、「ままごと」のようなワクワクを味わいながら、それぞれの人生観を深めています。

- Photo gallery -



何の植物で染めた？
一番上がアオイ(花は赤)、2段目右が紅花の葉、左がウルシ、3段目は右から紅花、ムラサキの根(紫根染め)、藍。



桜染めができるまで
桜色は、桜の小枝から抽出します。小枝を煮出した抽出液に布を入れる作業を、好みの色合いになるまで繰り返します。



刈生沢での作業後

地元・刈生沢の滝沢公園の野外炊事場を利用して染色をしたことも。宮城県在住の会員もおり、おしゃべりも楽しみです。



体験教室の成果品

令和5年に開催した「藍染体験教室」で参加者が作った作品は、日形秋祭りにも出展され、来場者の興味を誘いました。

地域紹介

安心して心豊かに暮らせる地域をめざして

地 今も昔も「萩荘」の中心

「沖」「西風」「古屋敷」の3つの集落で構成される萩荘第3民区には、かつて萩荘村役場や公民館などがあり、萩荘村(当時)の中心地でした。明治40年頃には、上・下黒沢耕地整理をきっかけに道路整備が始まり、民区内を通っている国道457号は当市と宮城県白石市をつなぐ主要道路へと発展しました。現在も、民区内には一関市立萩荘小学校・中学校、一関市萩荘市民センター、一関警察署萩荘駐在所があるほか、企業等も複数立地するなど、今も昔も萩荘地域の中心地と言えます。

区長の菊地敬喜さんは、「元々は農家60戸ほどでしたが、高度経済成長期などに農地の宅地化が進み、学校や国道4号、市中心部へのアクセスがしやすいなどの理由から住宅やアパートの建設が進み、たくさんの方が移り住んできました。平成25年頃には300世帯を超え、若い世代の転入が多いこと

萩荘第3民区(萩荘)

旧萩荘村は市野々、上黒沢、下黒沢、達古袋に分けられ、萩荘第3民区は、上黒沢に位置する(行政区は「萩荘3区」)。335世帯約910人が暮らす(28班体制)。総務部、事業部、会計部の3部会制。自主防災会等は別途組織している。



左の写真：自主防災会による防災訓練での集合写真(令和4年7月)

一関 萩荘第3民区

民区内外の事業に取り組み

通学路を中心に毎年2灯の防犯灯を設置したり、ごみ集積所の新設・改築など、インフラ整備に力を入れる同民区。春・秋の一斉清掃は民区全体で行いますが、花壇整備や子ども会活動は3集落毎に取り組みます。

そのほか、萩荘4区とを結ぶ古道「近(キン)坂」の草刈りなどは、民区役員等で実施(獣害軽減等のため)、毎年7月に行われる防災訓練は、自主防災会が中心となりAEDや消火器の使い方、地震模擬体験等、万が一の事態に備える学びの機会づくりをしています。

毎年7月7日の「川の日」の前には、小学校近くを流れる久保川河川敷(水辺の楽校)の環境整備にも参加(「萩荘地区青少年健全育成推進協議会」主催)。当該地に設

環境整備の一環で 農閑期には農家組合長等を中心に、農道の砂利敷き作業を行っています。体力がある若い人の協力を募集中です。



真夏の防災訓練

自主防災会主催の「防災訓練」は3集落の子ども会も協力して開催。夏休み期間中に行うため、子どもの参加率は高めです。



笑う門には福来る

令和5年12月のサロンは一関市消費生活センターを講師に、悪質商法などについて勉強。サンタからプレゼントも…!



民区内を花で華やかに

民区内3か所にある花壇は集落ごとに整備。班長や女性たちを中心に取り組み、民区内に彩りをもたらします。



置された遊歩道など水辺空間を有効活用するため、平成18年頃から始まり、萩荘地域内の全民区(非自治会)が協力。同民区も、区長など役員有志を中心に、毎年5人ほどが参加し、草刈り作業やごみ拾い等の環境整備活動を行います。毎月第3木曜日(5月と9月は休み)の介護予防教室「笑福サロン」は萩荘市民センターを会場に、萩荘3区福祉活動推進協議会が主催し、毎回20人ほどが参加します。令和5年度は、県立磐井病院の医師を講師に、緩和ケアについて学ぶ機会をつくり、ケアワーカーによる歌やゲームなどを行いました。また、2月には萩荘4区との合同サロンが4年ぶりに企画されるなど、コロナ禍前の交流が戻ってきました。

萩荘3区福祉活動推進協議会として事業を展開する民生児童委員の千葉哲夫さんは、「毎月趣向を凝らした企画を保健推進委員(2名)とともに考えています。4年ぶりの合同サロンは温泉旅行を企画していますが、久しぶりに隣の区との交流ともあって、反応は良いです」と笑顔を見せます。

人口9000人 組織・役員選任の課題

世帯数が増え続ける同民区には、人

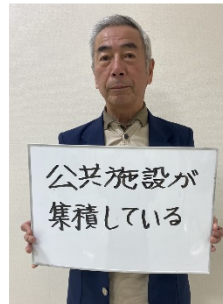
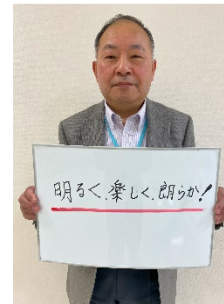
口の増加と時代変化による悩みが。副区長は各集落から1名の選任となっておりますが、近年、区長や民生児童委員、保健推進委員の後任がなかなか見つからず、改選期にはいつも苦労しているとのこと。

菊地さんは「これまで農家世帯を中心に役員を選出してきましたが、農家ではない世帯が増加し、かつ、定年延長などの時代変化もあり、役員の成り手確保に難航しています」と、役員選任の課題背景を分析します。

かつては担い手がいたため、後任を探す必要はありませんでしたが、時代とともに前に立つ人(立候補者)がいなくなりました。そこで、区長、民生児童委員、保健推進委員の任期満了時に、適任者を選任できるように、令和2年に「区長等役員選考委員会」の設置規定を整えるなど、役員選出に関する試行錯誤を重ねていますが、選考委員会をもつても、選出は難しいのが実情……。

3期目も務めることとなった菊地さんは、「コロナ禍の影響で各種行事や会議などの中止が続く、人材発掘や人材育成などが一層難しくなったのは確か。少しずつにはなるが、以前のように、事業を通して住民同士が交流できるような機会をつくり、新たな人材が発掘

Q.集落の自慢は何ですか？

| | |
|---|--|
| <p>区長</p>  <p>きくち けいき 菊地 敬喜さん</p> <p>監事や副区長を経て現職に(3期5年目)。コロナ禍と同時に区長となったため、民区運営について模索しながら地域を支えています。</p> <p>A. 公共施設が集積している</p> | <p>民生児童委員</p>  <p>ちば てつお 千葉 哲夫さん</p> <p>副区長を経て現職に(2期5年目)。御獄神社(萩荘)の総代なども担う傍ら、自主防災会の事務局長としても活躍中です。</p> <p>A. 明るく 楽しく 朗らか!</p> |
|---|--|

- Photo gallery -

千厩 インテグラン株式会社

電子機器業界の中でも特殊電源、産業機器装置、高密度プリント基板設計の分野で、開発・設計・試作から保守まで一貫した受託体制を展開。旧藤沢町の誘致企業として、昭和58年に旧藤沢町立保呂羽小学校旧校舎に岩手工場を設立し、東日本大震災での建物被害や事業拡大に伴い平成27年に現住所(千厩町千厩字下木六)に移転(本社東京都八王子市。代表取締役社長 関山 浩一氏)。

電源の中でも「航空・宇宙・防衛といった過酷で特殊な環境下で使用される電源(特殊用途向けカスタム電源)」の製造を通し、日本の安心安全を担っています。

宇宙規模の「電源」製造で、地方でも誇れる仕事を

社会に役立つ技術の確立

航空自衛隊中等練習機「T4ブルーインパルス」の航法支援装置や国際宇宙ステーション「きぼう」日本実験棟」で地球との映像・音声通信中継装置に使用する電源等、航空・宇宙・防衛などの特殊な環境下で使用される「特殊用途向けカスタム電源」の製造を主力とする企業の岩手工場が、千厩町にあります。

昭和41年創業の電子部品及び電子装置のOEMメーカーを前身とし、昭和49年、東京都にて創業。昭和58年からは旧藤沢町に岩手工場を構え、医療・産業機器(大手企業の通信機用の電源、携帯電話等の基地局用電源など)を主力とした製品製造を展開してきましたが、徐々に航空・宇宙・防衛・防災等の特殊機器分野事業が加わり、平成21年から拡大。のちに、特殊機器分野に特化した「特殊用途向けカスタム電源」の開発・製造が約7割となり、重きを置いています(医療・産業機器分野の製造は現在も展開中)。

親会社である太陽工業株式会社は、「経営者を育てる」という観点から、約50年前に「分社制度」を取り入れ、分社した14社は、それぞれが得意と

する製造技術を最大限に活かしながら発展を遂げてきました。

人材を人財となるよう育成する

「工場内の設備は最新鋭・最先端のものばかりではない。航空・防衛等の特殊な電源は小ロットが多く、作業の機械化・自動化を進めにくいという悩みもある。ここで必要となるのが『人の手』社員の技術』なのです。『設備よりも技術者の育成に力を入れていく』と言っても過言ではない」と語るのは、常務取締役の加藤裕二さん。「自社ブランド製品はないですが、特殊用途向けカスタム電源の製造メーカーとして社会インフラを支える企業であることを、一人ひとりが誇りに思っているはずです」と続けます。

岩手工場には、現在72名の社員がおり、7割以上が国家資格でもある電子機器組立て技能士の資格を取得、他に39名が品質管理検定資格を取得



1 右：加藤裕二さん(常務取締役) 左：佐藤浩一さん(岩手工場長代理)
2 工場内の様子。
3 平成27年、空き工場を買い取り、藤沢町から千厩町に移転。

【岩手工場】〒029-0803
一関市千厩町千厩字下木六321
TEL 0191-51-1170
FAX 0191-51-1172
URL <https://integran.co.jp/>

(令和5年12月末現在)。資格取得を推奨し始めた当時(平成17年頃)は、ベテラン社員から「何で今さら」という声もありましたが、取得支援として場所と材料を提供したり、報奨金制度などを整えたことで、3〜4年で社内での雰囲気は180度変わり、現在は資格取得の時期が来ると社員同士で勉強会や模擬試験を開いて実技の練習を行うほどに。

「航空・防衛事業は機密事項が多く、企業PRにも工夫が必要」という同社ですが、経営理念の一つに「人材を人財となるよう育成する」という言葉が、「一人ひとりが主体的に判断しながら働くことができる環境を提供し、若い人でも思いきりチャレンジできる会社」を目指しています。

工場長代理の佐藤浩一さんは、「地域発展を願いながら国の仕事も担っているという誇りを持つ技術者を次世代にも繋げていきたい」と、「人材育成」に努めています。

今月のテーマ

地域運営の落とし穴(44)
失うものの代償



第60話

「地元の味」を守る = 「地域性」を守る

最近、市内でも新しい店舗等のオープンを目にするようになり、明るい話題だなと感じる一方、新聞に目を通すと、閉店や事業所閉鎖のお知らせが……。高齢化による人手不足、経済の低迷に、コロナ禍の影響が拍車をかけています。「生活」は、それなりにできるにしても、「地域性(=地域らしさ)」を失い始めているのを実感します。

令和5年7月、当市から「青果市場(一印一関青果卸売株式会社)」がなくなりました。市民生活への影響は案外大きく無いように見えますが、実はじわじわと可視化され始めていることが。ピーク時は約30億円の売上高があったという青果市場は、直近では約9億円と、取引件数は減り、昔に比べると取引商品が並べられている面積も小さくなってはいたものの、需要があったのも事実。市場の存在によって支えられていた人々がいたのですが、その人たちにはどのような影響があったのでしょうか？

「売り先」となる市場が無くなり、作付けをやめる農家が増えました。「産直があるじゃないか？」と言われることもあるのですが、産直出荷は、消費者とつながる楽しみがあるものの、個人販売が主となるため、出荷作業も個人向けに。ある程度の規模感で作付けをしている農家にとっては、大ロットで出荷できる方が収穫と出荷のバランスが良いのです。市場の閉鎖をきっかけに作付けをやめた農地が増え、その姿は、土が見えるだけ。まったく美しくない。景観が変わってしまいました。

大手スーパーの進出で個人商店(八百屋)がどんどん姿を消していく中、これまで青果の卸や小売りなどで何とか続けてきた商店がありました。しかし、これらの個人商店も、市場がなくなったことで「仕入先」を失い、閉じる決断をせざるを得ない傾向に……。同じく、入所施設や地元の食堂に卸していた仲買人も、仕入先を失い、直接農家と交渉し始める姿がありました。そして、農家あつての「種屋さん」までもが……。

負の連鎖はここまで続くのか……と、切なく感じると同時に、それだけの関係性があった産業が維持されていたのだと改めて気づかされます。農家は、自家消費分は生産を続けているので、食べる分には困らないですが、市内に出回る野菜が市外産、県外産中心という事態になってしまえば、地産地消なんて間違っても言えません。農業は基幹産業だと言いながら、「売り先」がないと、このような状態になってしまいます。作る・売るのバランスが取れるようにできないものかと、悩み続けています。

そして、令和5年12月31日、室根町を代表する菓子「白あんぱん」が150年の歴史に幕を下ろしました。令和4年には、「藤ねずり」がなくなり、翌年は「白あんぱん」……。ローカルな菓子は、**地域の象徴**として存在するものと言っても過言ではありません。産直に寄って、その土地の銘菓を探すことはよくありますよね。産直に行けば、その土地の何かを発見することも多く、外出時の楽しみの一つだという人も多いでしょう。地元住民が、盆正月や御遣いに使うのはご当地のもの。高齢化、後継者不足で「地元の味」を失ってしまうのは、「地域性」も失ってしまうことに。

地元にあるモノが「当たり前」で、「いつでも買える」という安心感はもうありません。私たち市民が、改めて地元にある銘菓などの**価値**を知り(広域の一関市なので恐らく知らない銘菓もあるはず)、これ以上失うことがないように、**地元銘菓などの維持キャンペーン**を行い、菓子店にメッセージを送りましょう。「猿沢羊羹」や「ふじまんじゅう」のように、**復活・継承されたケース**もあり、それに期待したいです。

さらに、旧町村単位で「〇〇町と言えば〇〇」と言えるほど名物店のような存在だった「ローカル食堂」たちの中からも、高齢化が理由で現店主の代で閉店ではないかという噂も聞こえてくるように……。

時代の変化とは言え、今後不安しかない日々。これ以上、**私たちの地域性を失わないためにも、どうする?一関。**



令和4年、店主さんのご逝去により、突如消えてしまった室根町・観音堂製菓の「藤ねずり」。せめてもの記録にと写真を撮っておいたのですが、「室根名物」と書かれたパッケージに、切なくなります……。

地域の「気になること」をセンタースタッフが独自に調査！

難解・難読地名に挑戦！ 第8弾 in 磐清水

当センタースタッフがピックアップした「難解・難読地名」をテスト形式で100人に課題し、当該地域における「読めない地名ランキング」を勝手に作ってしまう人気企画「難解・難読地名に挑戦！」。第8弾となる今回の対象地域は千厩町の「磐清水」。今回も「最も読めない地名」に見事選ばれた場所に行ってきました！
※記載内容はあくまでも当センター独自調査の結果です。

難解・難読地名 ランキング

※ゼンリン住宅地図に掲載されている地名の読み仮名を正解とします（「ザワ/サワ」「ダ/タ」なども区別しています）。

| | 地名(よみがな) | 正解者数 (105人中) |
|-----|---------------|-----------------|
| 1位 | 姥田 (ぼんだ) | 2人 |
| 2位 | 荻生田 (おぎおだ) | 9人 |
| 3位 | 樋口 (ひのくち) | 12人 |
| 4位 | 蒲沢 (がばざわ) | 15人 |
| 5位 | 神子沢 (みこのさわ) | 18人 |
| 6位 | 田神 (たのかみ) | 29人 |
| 7位 | 躑躅 (つつじ) | 33人 |
| 8位 | 重箱石 (じゅうばこいし) | 42人 |
| 9位 | 上関代 (かみせきしろ) | 49人 |
| 10位 | 鷹巣 (たかのす) | 52人 |

今回の調査には105人の方に協力をお願いしました(磐清水地域以外の市内各種組織・団体・企業の方、講座や会議等でお会いした方など、当センタースタッフが直接対面しての調査)。その調査結果をランキングにまとめたのが左の表です。
1位となったのは解答記入者数58人、うち正解者がわずか2人しかいなかった「姥田(ぼんだ)」。解答は「うばた」が圧倒的に多く、次いで「おいた」が数人。先述の105人とは別に、磐清水住民に地区民祭(磐清水梅の里地区民祭)などで同様のアンケートをとりましたが、15人の協力者のうち、正解は5人、「うばた」という解答が5人、無解答(「ギブアップ」)が5人と、磐清水地域内でも認知されていないというところが判明。「今まで『うばた』と呼ばれていた」という声も聞かれました。「姥」という字には本来「ばん」という読み方がないため、こうした結果になったと思われます。
なお、解答記入者が最も少なかった(47人)のは「躑躅」ですが、その正答率は70%で、3番目に高いという結果に。2位の「荻生田」は「ハギユウダ」「オギユウダ」などの回答が多く、正答率は13%でした。

「姥田」の由来

「ぼんだ」という読み方で由来を調査しても、「これだ！」と思うものがみつけれなかったため、試しに誤答で多かった「うばた」という読み方で調査を行うことに。
すると、いわゆる「地形語(地形地名)」の中の「ウバ」は、崖地や岩地を表したり、「北東-南東」方向を意味することがあるという情報を入手。姥田の地質を地形アプリで調べると、花崗岩の土地であり、かつ、姥田を麓とする山から見ると、姥田は北東や南東方向に位置しています。つまり、「うばた」という読み方であれば、姥田の実情とリンクするのです。
「姥」は訓読みで「ばば」とも読むことから「うばた」が「ばばた」となり、それが転訛して「ぼんだ」になったという推察もできます。
しかし……。文化14年(1818)の寺沢村の絵地図には、現在の姥田の場所に「姥田屋敷」が2軒記されていますが、寛永19年(1643)の『御検地帳抄記』には、屋敷名に「新百姓 ぼんだ」という記載が。「新百姓」ということで、移住者の可能性も……。そうなると、転訛よりも最初から「ぼんだ」の可能性が高く、真相はわからぬままです。
※参考文献等は当センターHPにてご紹介します。

難読地名トップの 姥田(ぼんだ)に 行って見た

■「姥田」の立地
千厩町磐清水の小字名である「姥田」は、国道456号を千厩町から大東町摺沢に向かって走らせると、道路の左方向にあり、JR大船渡線の「仏坂踏切」を越えて向かいます。
「姥田」の行政区は「千厩22区」で、自治会は「寺沢自治会」に属します。寺沢自治会には、69世帯166人が暮らし(令和5年3月現在)、うち2世帯4人が姥田に居住。この2世帯の方に話を聞くと、「50年程前に嫁いで来た時には5戸あった」とのこと、一時戸数の増えた時期があったようです。



■「姥田」の特徴
山の谷間に居住地を開いたような「姥田」は、道も狭く、道路も未舗装。山の斜面を切り出して作ったような道もあり、住民が定期的にメンテナンス(流れた土を寄せる等)をしています。花崗岩の土地であり、表面上は粘土質(花崗岩は風化すると粘土状になる)です。
※『東磐井の地名と風土(阿部和夫著)』には「姥田は(ハニダ)で粘土質の田」という記載がある。ただ、「姥」に「はに」という読み方は存在しないため、真意は不明……。



「うばた」の可能性を 検証してみた



■「姥捨て山」だった!?
地元の歴史に詳しい方にお話を聞くと「姥捨て山伝説」の話が……。文献等がなく、検証はできませんでしたが、ご存じの方がいればぜひご一報ください!

右頁でも紹介したように、江戸時代には屋敷名として「姥田」が存在していたことは確認できました。ただ、どうして「姥」を「ぼん」と読むのか、納得のいく理由が見つからず、「うばた→ばばた→ぼんだ」への転訛説を押ししたい私たち(笑)「うばた」の可能性を検証してみました。

■「北東-南東」を指す「ウバ」
水田等に自然の水流を利用するため、好んで傾斜のある山沿いを利用した時代があったようです。そのために、そうした場所を表現する言葉(地形語等と呼ばれる)が方言的にできていったのだとか。
その一つに「ウバ」があり、「北東-南東」方向を意味するという情報が。姥田が麓と言える山が2つありますが、それぞれ姥田が北東、南東にあたります。「ウバで田を始めた家」のような屋敷名だと納得がいくのですが、検地帳の記載が「新百姓 ぼんだ」になっており、残念ながら矛盾が生じます……。

